

## タウンミーティング（橋地区） 開催報告

- 日 時 令和元年 6 月 26 日（水） 午後 7 時から
- 場 所 橋公民館 2 階大会議室
- 参加者 橋未来づくり協議会 会長、副会長（2 名）、顧問、橋の未来を拓く会（7 名）  
橋公民館 館長、主事、主事補、地域づくり支援員  
市長、経営戦略部長、市民生活部長、シティプロモーション推進課長、  
市民協働推進課長、シティプロモーション推進課広聴係長、  
市民協働推進課地域組織係長
- 傍聴者 14 人
- 次第
  - 1 開会
  - 2 挨拶（市長）
  - 3 経緯説明
  - 4 挨拶（橋未来づくり協議会会長）
  - 5 協定書署名
  - 6 記念撮影
  - 7 橋未来づくり協議会運営委員等と市長との意見交換（タウンミーティング）
    - (1) 自己紹介
    - (2) 市政報告（西条市の主要事業について）
    - (3) 意見交換（テーマ：橋校区地域未来ビジョンの実現に向けて）
  - 8 まとめ・閉会
    - (1) まとめ（市長）
    - (2) 挨拶（橋の未来を拓く会事務局長）

### ○会議録

#### 1 挨拶

##### 【市長】

こんばんは。本日は足元の悪い中、地域自治の実現及び協働によるまちづくりパートナーシップ協定調印式ということでご参加をいただき、感謝を申し上げます。

また、平素より皆様方には、西条市政発展のために格別のご理解、ご協力をいただいていることを、本席を借りて、厚く御礼を申し上げます。

皆さんのお力をお借りしながら、橋未来づくり協議会と本市初のパートナーシップ協定の締結までたどり着くことができ、非常に感慨深いものがある。ご案内のとおり世界に類をみない人口急減、あるいは超高齢社会という中で、私たちの進むべき道はどこにあるのか。こんなことを考えながら社会的課題が複雑多様化する中で、もがきながらも、これからのあり様を考えていかなければならない時ではないか。このように思いながら皆さんに甘えさせていただきながら、ここへと辿り着くこととなった。先ほど申し上げたような、社会的課題、複雑多様化する課題が本当に多い中で、私たち行政の担う役割も、行政だけで担うことができない時代となってきた。この行政が賄えない部分を、地域自治あるいは協働のまちづくりによって、私たちの子どもや孫の代にしっかり持続可能な暮らしを届けていく。これがまさに今ここに生きている我々の責務・責任ではないかと強く思っている。こういった推進が求められている中で、西条市もこれにチャレンジしていこうではないかという思いが強くあった。桜井先生の話によると、我々行政から押し付けるのではなく、地域の皆さんからの声を大切に、地域の課題をどう解決するかはここに暮らすみなさんに考えてもらい、その事をやはり優先するべき。上からの行政ということではなく、ボトムアップという形の地域づくりを考えてもらおうと思っている。非常に長い時間をかけながらやっていかなければならない。その途中では、早くやらんかねというような声もあったのではないかなと思うが、一つずつ丁寧に、そしてみんなが真摯に話し合い、協議の場をもつていただき、ここに辿り着くこ

とができた。

橋でできなかつたら、どこでできるのだから。そして橋で火をつけて西中校区に火をつけて、氷見校区、禎瑞校区へつなげていく。やはり西条市の地理的など真ん中はこの地域なので、ここから広げていきたいという思いで、橋地域未来ビジョンの策定をしていただき、そしてこれを実践するためにこの協議会を立ち上げていただいた。私たち行政も、しっかり協働のまちづくりをやっていくので、一緒に伴走させてほしい。そして、この橋のあり様を地域全域に、しっかり体現させていき、第二、第三の橋を作っていきたい。こんな強い思いで、この協働のまちづくりに力を注いで参ることをお約束させていただきたい。このあと、タウンミーティングという形で、まちづくりのパートナーとして様々な課題を抽出していただき、この協定を結んだだけに終わらず、これから実践をしていくまで疑問等々あるかと思う。今日即座の解決にはならないかもしれないが、それを持ち帰って皆さんにお返ししていくような形で、意見交換をしていきたいと思っているので、限られた時間ではあるが、よろしくお願ひしたい。ここに至るまで皆さんの大切な時間を割いていただいたことに、重ね重ね感謝を申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきたい。

### 【橋未来づくり協議会会長】

あらためて、皆さんこんばんは。本日ご出席いただいている、橋の未来を拓く会のメンバーをはじめ、地域の多くの方々にこれまで助けられ、支えられて橋校区地域未来ビジョンをここに策定することができた。そして、玉井市長、市の職員、さらには関係団体の職員から、今までご指導ご助言をいただき今日を迎えられたことを、大変うれしく思うとともに、心から感謝を申し上げる。いよいよ、地域未来ビジョンを具現化し、実行・実践に移す段階がスタートした。これからは、関係機関と連携を密にし、橋のみんなのパワーを借りながら、より住みやすく、より豊かな橋の実現のために、努力して参るので、より一層のご理解とご支援を賜るよう、お願ひを申し上げ、挨拶とする。

## 2 橋未来づくり協議会運営委員会等と市長との意見交換（タウンミーティング）

### （1）意見交換（テーマ：橋校区地域未来ビジョンの実現に向けて）

#### 【市民協働推進課】

先ほど説明があった橋地域未来ビジョンを実現していくために、どういう風にしていけばいいのか、そこがテーマになろうかと思う。この機会に市のほうに言っておきたいことや、一緒にこういう事に取り組めないかとか、こういうところについては市民が頑張っていくとか、を皆さんご意見や感想をお願ひしたい。

#### 【参加者】

以前、橋の未来をえがく会でも度々でてきた問題だが、やはり一人一人の負担というものが増えてくる。市が管轄しているものや委嘱している事業、同じようなものがいくつか出てきていると思うが、今後こういったものを無くしてもらえる検討や、そういう考えについてどうか。

#### 【市長】

例えば、健康づくり推進委員やスポーツ推進委員など共通しているような項目があったりすると思うが、橋はちょっと早いスピードでこういった形が、まだできていないところもある。その様な中で、市民の皆さんに同じようなレベルの水準で、市民サービスを提供していくということは考えなくてはならない。例えば、橋校区で4名の方が出てきてくれているけれど、それをまずは2名くらいに削減するとか、或いは、先ほどの健康とスポーツを一本化するとか、そういった方向は間違いない。ただ、ベクトルが違うので、残っているほうをどうするかというのを考えながら、徐々に合わせていくという形になろうと思うので、一挙にということにはならない。例えば、健康づくりやスポーツの関係など、共通する項目については役職の数を減らすとか、そして重なりがあれば一つにするとか、そういったことはしていきたいし、しなくてはならない。それがいつからするかというのは、今はお答えができないが、そういう考えで進めていきたいと思っている。

**【参加者】**

一応、自分たちなりに考えていくなかで、やはり負担の軽減というものが一番求められているところではないかと思う。これからは、未来を拓く会なので、そういうところも進んでいくのではないかと期待をしているので、よろしくお願ひしたい。

**【参加者】**

私は、橋の未来をえがく会から、橋の地域づくりに関わっており、市から地域への補助金の一本化について、地域での話し合い等が出た意見を代表して提案させていただきたい。現在、橋校区には、西条市から自治会や各種団体への活動費補助金や、校区の運動会や地域スポーツ大会への補助金、敬老会に開催にかかる委託金など様々な補助金等が交付されており、大変ありがたい。一方で、各種団体の役員は高齢化や担い手不足といった悩みを抱えており、今回、橋校区の地域未来ビジョンの検討の際にも、地域の皆さんから自治会・校区等の負担軽減を求める意見が多く出た。その負担の一つとして、各種団体等から補助金ごとに、西条市の担当部署に対して、補助金の交付申請手続きを行うことがあげられた。そこで、市長に提案だが、西条市から橋校区に補助金や委託料についての補助金について、可能な範囲で一本化して地域へ交付することはできないか。これにより、補助金等の申請にかかる事務手続きの簡素化が図れ、補助金等を一本化することによって市の担当課の負担も軽減されるなど、地域と行政それぞれが事務の効率化を図ることができると思う。さらに一本化された補助金について、西条市がその上限や使い道を制限するのではなく、地域の裁量で柔軟に活用できるようにすれば、有効的に活用ができるのではないかと。これも簡単にできる話ではないと思うが、これを行うことによって、これはいる・いない、くつつければいい、そういった見直しをするキッカケにもなると思う。全部ができるわけではないと思うが、できたらいいと思うので、よろしくお願ひしたい。

**【市長】**

本当にそのとおりで、今回、地域づくり支援員を橋公民館に配置できたのも、スタートアップの部分のお金だと思っていただきたい。これは財源的にも人的にも、これから運営をお願ひしていく中で事務作業等々の発生が想定されるので、市からのお金を渡そうと予算化して交付をしている。今、おっしゃられたように、様々な行事を地域でやっていたと思っています。例えば、広報紙の配布の仕方はどうか、それぞれの地域にお渡ししている交付金や補助金の使い道は、地域の皆さんでお考えいただきながら、一括交付金のような形で運営をお願ひする。それぞれ地域によって課題は違ってきているので、権限も財源もお渡しできるようにしていくことが、今後の運営に繋がると思う。西条市の事業で、橋だけが先行しているので、そこを差っ引くのにどうしようかなと考えたりもするが、そういうことが求められているし、求めてきたので、そういった方向でしっかり考えていきたい。権限、財源そして人的というような部分で協力していきたいと思っている。

**【市民協働推進課】**

橋の未来をえがく会の中でそういった意見がいろいろ出ているというのは、ここで改めて感じることができた。続いて、橋の未来をえがく会の中で、先ほど説明があった地域未来ビジョンの中で最優先事項に掲げている、「持続性のある地域運営」に8か月間議論をされてきたが、その話し合いの中で出た意見などあればお聞かせ願ひしたい。

**【参加者】**

人口減少に伴って、なるべく行事を減らしていかなければならない。その時の行事や役を減らすためには、橋校区だけで決めている人事であれば、減らすことができるが少し話を進めると西条市役所の上部団体まで繋がってしまうので、それを橋単独では省くことができない。そういった役職が結構あるので、橋校区で減らせる役職に関しては極力減らしていき、市役所に関する役職については、無理なお願ひをするようだが、少しでも減らしていただきたい。橋単独で議論もしたが、これは市からの委託なのでのけられないというのが結構多い。市とも相談して極力減らしてもらえたらと思う。

それと、今一番問題になっているのが、高齢者の移動手段がないということが挙げられる。地域のバスを動かすとか、動きをしたいと思った時には、市の方と相談したいので、その時

はよろしくご助言をお願いしたい。お願いばかりで申し訳ないが、努力できることについては、橋校区の人で全部やりたいと思っているので、協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

#### 【市長】

これは最初の質問とよく似ている部分があるが、市民サービスの水準というのは、我々行政として確保しながら水準や行事の内容は精査をしていかなければならない。そういった中で、レベル合わせをするというのは必要かと思う。それと、先ほどから繰り返になるが、やはり過渡期になるので、先行している橋と後発組をどのようにベクトルを合わせていくかというのは、ちょっとエネルギーがいるのかなと考えるし、行事を減らすことがサボることではないと、みなさんそういう認識を持ってもらいたいなと思っている。

そういった中で、どのように地域で工夫をしていき、どうやって確保していくか協議会の中でも、十分議論いただきたいなと思っている。市側についても、市の職員にもよく言っているのが、行事の棚卸をしたらどうかと言っている。今日も職員たくさん来ているけど、そういう意味ではもう棚卸ができない体質になっている。プラスオンされていくので、どんどん自分たちの仕事を増やしているというような状態なので、思い切ってカットできることであれば、やはり棚卸をするということも必要ではないか。そうすることで市民の皆さんからのお願い事も少しは整理ができるのではないかと、こんな事を思っている。そういった形で私のほうからも業務の棚卸をする中で、皆さんに過度な負担をかけていないかも含め見直していくということ。そして地域づくりの関係でいうと、少しベクトルが合わないの、そのベクトルを合わせながらどうしていくのかは、ちょっと考えさせてほしい。

そして、移動の手段については丹原も課題をかかえている。補助金含め1億円くらい公共交通に交付している中で、うちの父親からも、空気運びよんじゃないかというようなことをよく言われる。1億円を皆さんの地域交通守るために払っているのだから乗ってくださいというお願いもしているが、たちまち今はいらぬという人は本当に乗らないし、乗ってくれない。デマンドバスについても、私の案として例えば、最初に利用される方から前払いでお金を頂戴して会員になってもらい、その都度はお金がいらぬようにする、あるいは病院やスーパー、銀行とかにスポンサーになってもらい、バス停を作ってあげて乗降ができるようにする。そうすれば否が応でも乗ってくれるのではないかと、思っているが、市民のみなさんは反応しない。前払い金なんて払わないだとか、払わないというのがやり方だとか、こちらからも少し活氣的にやったらどうでしょうかという提案には乗っかってきてくれない。ものすごく慎重である。そういった中で、丹原で試験的にデマンドバスをやっているが、悲しい事に利用者が月1名しかいない。バス事業や公共交通事業はいらぬと言うつもりである。厳しいようだが、空手形を渡すような余裕はない。先ほど言われたように、買い物を含めて足になってくれる公共交通機関は、私たちの公共交通機関と思ってもらえず、将来的に必要なということも、五つの矢で判断しなければ、渡せばなしになってしまう。もっと違う方法はないか、こういうことを考えていかなければならないのではないかと。橋では買い物ツアーを考えたらどうかという意見を私も聞いているが、例えば運送法の関係など、そういうのも引っかからなくて、うまいことやりくりができるのであれば、これがまたモデルになるかもわからないし、この問題については一緒に考えていきたいと思う。

#### 【参加者】

高齢者の移動手段について市長からおっしゃられた事で、いろんなことがあるのだと思った。先日、交通安全母の会連合会総会に出席し、警察の方から高齢者の事故がすごく多いとのことで、免許の返納をされるか、いい車に乗ってくると事故が少なくなるというような事を言われていたが、車に乗らないと移動手段がない。先ほど市長がおっしゃられた事をやっていただければ、子どもたちが事故にあう確率がすごく減ると思うので、ぜひお願いしたい。

あと、その母の会に出た時にお土産があり、そのお土産にかかるお金を違うところにかけていただいたほうが良いと思った。また、タクシーのチケットもあり、簡単なことではないと思うが、他に使ってもらえたらと思う。母の会自体についても他の交通安全の会もあると思うので、行く意味があるのかと思う。母親に伝えることがある場合は、違う形で伝えることができ、仕事や行事もいっぱいあるので、会の統合を図ることで負担が減ると思う。会長

や役員もいろいろな方が担っているのです、その負担も減るのではないかと感じた。

**【市長】**

先般、国交省の方と話す機会があって、交通事故を少なくするためには、車側を制御するしかないということを言っていた。芸能人が免許返納したとか言うが、あの人たちは別に乗らなくてもいい。だけど、ここの地域に住んでいる人たちは、ちょっと周ちゃんまで物を運びたいとか、こんな意識が働いて少し乗りたいという話になってくる。車の制御側で、事故を減らすことができるとはならないかというのを、国交省の役人が真剣に考えている。車が急発進しないように制御したり、あとは、道路に細工をするとか、そんなことを真剣に考えていかなければならないし、私の母親に関しても周ちゃんまでは行っていいが、それ以上は行ってはいけないと区間を限定したりとか、いろんな事を考えている。やはり、小さな子どもが亡くなったというような報道を見ると、悲惨な事故に本当に心が痛む。そういった中で今の姿を思うのではなく、あと5年後の姿を思った時に、この公共交通、デマンド交通はいますかという問いかけをしていきたい。いらないのであれば本当にいらないと考えられるのではないかと。予算についても少しの金額かもしれないが、有効に使うということが重要なことなので、そういった声が多ければ気付きになるし、各団体で同じ行事をして、会議が重なるということもあると思うので、団体との調整も含め、ひとつの会で解決できるのであれば無くしていくことが役職の減少にもなり、皆さんの負担の軽減になると思う。いきなり来年からやるという約束はできないが、将来的にはそういう姿を追い求めていきたいので、皆さんのそういった声をぜひとも寄せていただきたい。声が大きければ大きいほど、やらざるを得ないので、皆さんの声を寄せていただきたい。

**【参加者】**

モデル地区にもしていただいて、補助もしていただきながら少し言いにくいところもあるが、結論を急がないでほしい。地域づくりというのは、独自のいうのも大事だが、地域の人の意識の向上というのが一番大事ではないか。そういう意識を徐々に醸成しながら、5年後に地区の意識はどう変わるのか、となり近所が本当に助け合う意識がでてくるのか、というところを見ていきたいと思う。そういう意識ができてくると、ほとんどのことが解決できるのではないかと思う。だから、橋には人も物もお金も入れているのに、結論がなかなか出ないじゃないかと言わずに、長い目で見ていただきたい。そうしないと地域づくりというのは、なかなかできないのではないかと思う。

**【市長】**

本当にフォローしていただき、感謝を申し上げます。機械ではないので、やはり画一的に事が進むとは思っていない。繰り返しになるが、話し合いからスタートして積み上げていかなくてはならない。機械に油を注入して済むようなことではないので、ここは時間がかかるのだと思っている。そういった中で、お金というのは微々たるものしかお渡しができていないかもしれないが、その事を考えながら、使っていただきたい。そして、より良いまちにしていくために、先ほどしっかりサポートして伴走すると約束させていただいたが、長い目で見てということになる。注目はされていると思うが、焦ることはない。確実に着実に少しずつ前進をしていくという姿を、見せていければと思う。ただ、2歩進んで1歩下がることもあると思う。でも、それも良いと思うので、まだまだダメでも良いと思っている。

**【参加者】**

私は農業をしており、昨今では台風やゲリラ豪雨などで水路が溢れる。今は後継者不足で、耕作放棄地も多いという中、水路や池の掃除を少ない人数で頑張っている。これに関して、水路が古くなってきており、橋は小学校から全部坂になっていて、雨が降った時に水路が潰れたり氾濫が起きたりするので、長い目で見て解決してほしい。いろいろ努力はしているが、なかなか対応が難しい時もあるので、お願いしたい。

**【市長】**

橋の人って優しい。長い目で見てくれと言ってくれるのは本当にありがたい。現在では社会基盤が本当に老朽化してきている。公共施設もだが、橋梁・道路・ため池、こういった部分の老朽化が非常に進んできている。一挙に直せるのかということ、これは県や国からのお金も

頂戴しながら市も一緒にということになってくる。そういった中で技術的に優先順位をつけさせてもらい、しっかりと予算を確保しながら進めていくことなので、その時に橋が当たるかもしれないし、逆に違う地域が当たるかもしれない。逆に投げかけになるが、新兵衛大橋があり、その向こうに古い橋があり、さらにその向こうにも古い橋があり、その次に196号線のあの古い橋が必要な人はたくさんいる。しかし、古い橋は、新しい橋がかかっているので、お金をかけていくことができない橋なので、公共、社会基盤のインフラを撤去していく場面もこれからは出てくるのではないかと思う。そういったことを、市民のみなさんが許してくれるかなというようなことも考え、それにお金をつぎ込むことにはなかなか行き当らないので、それは新しいほうの橋を通ってくださいというケースがこれからは出てくるのかなと思う。例えば、西条市に市民プールが2つ必要ですか。その時は良かったと思う。体育館も4つあるが同じように痛んでいく。同じように4つ直したら、これから大変なことになる。しかし住民のみなさんに、なんで旧西条だけとか、なんで西のほうだけとか、こういう事を言わないようにしてもらわなければならない。そういうことで、基盤の部分で優先順位をつけてやらせていただきたいと思う。ちょっと話が脱線するが、老人クラブも4つある。旧行政区ごとに行く必要があり、そういったことも集約化できるのなら、手を抜きたいのではなくて整理ができる。ただ、その時によく言われるのは、1つにまとめたら参加者がなくなると、こう言われている。参加者を減らさないためには、4つやったほうが良いと、そういった声もある。土地改良の整備も含めて、繰り返しになるが、その部分は優先順位をつけてやっていく。そして、集約化というのみなさんに参加していただき、話し合いながらやっていかなければならないのかなと、こんなことを思っている。

#### 【参加者】

市役所の方たちなので今までやってきたことを、これからも続けていくという事はすごく得意だと思うが、人口が減っていく中でいろいろ諦める、やめていく事も必要だと思う。その中で私たちとしては、無くなったことやめたことは目につきやすいけど、これによってどういうことが新しくできるのかというメリットの部分、広報などで発信してもらえば、メリットを知ること満足度の高い生活に繋がると思う。そういったことについては何かお考えか。

#### 【市長】

本当にやめていくことにはすごく勇気がいること。ただ、その番が自分の時に回ってきたと覚悟している。例えば、老朽化していく施設2つを1つにするという話は、地域特性があり、2市2町で合併したので西か東かみたいな話はやっぱり出てくる。そういった時に、スクラップだけではなく、少しビルド側を提示できないかなと思っている。例えば、体育館が4つあり、これを2つにしていくことはできないか。あるいは、ゴミ処理場の問題で150億円なんて話があったが、今後人口は減っていき、ゴミの総量もたぶん減っていくとした中で、隣の新居浜市と連携を図り費用も半分半分にならないかとか、陸上競技場は2種以上が公認記録ということで認められているが、今治の新都市に陸上競技場1種を作り、西条の2種の陸上競技場を3種に落とすことはできないかとか、そういった工夫はしていかなければならないと思う。例えば、プールの話にしても、これは私の夢物語として聞いてもらいたいのだが、市民プールは機械の故障などもあり、今年は限られた動くところだけ動かして無料で提供しようとしているが、合宿都市の構想や、あるいは市民のみなさんの健康づくりのために、それを廃止にしても温水プールを作ることができないかなど考え、夢も希望もないまちにはしたくないので、スクラップをしながら、工夫の中でビルド側を用意していくこともしていきたいと思っている。マスコミがいるのでどうかと思いながらも、夢物語ということで紹介させていただいた。そういったことがこれから必要なのだろうと思っている。

#### 【参加者】

最近様々な事件があり、小さい子どもが亡くなっていくというのは辛いことなので、私たちもなんとかならないかと職員会もした。こういう自然の中で散歩を多くさせてほしいという保護者の方も大勢いる中で、散歩もたくさんさせてあげたいけど、事故の問題、不審者の問題、いろいろな問題を考えると、なかなか思うような散歩もさせてあげられない。

どんな対策をしていけばいいだろうかと考える中で保育士が、今まで2人で連れて行っていたところを3人で連れていくという意見が出たが、職員の人数も限られており、なかなか自由な取り組みができないという事もある。それで、不審者対策のために防犯に力を入れて、できることはないかとか、散歩だけでなく、修学前のお子さんを持っている保護者の方に自由に遊びにきてもらい、老人たちとの交流なども園でできたら、もっといいかなと思う。部外者の方が園にやってくるというところで、そういう対策も何か考えなければいけないなど思い、理事の方からいろいろアイデアもいただいているが、何か市のほうで力になっていただけるとはならないか。

#### 【市長】

本当に悩ましい問題である。大津の事故も含めて、子どもたちが巻き込まれるケースがあって、私も孫の世代になってくるが、彼ら彼女らが亡くなったらどうなるのだろうと想像すると非常に辛い。そういった中で、散歩をさせないという選択はないと思う。西条市では、ただちに確認が必要ということで、散歩コースのチェックをさせている。させているというより、保育士さんや幼稚園の先生が主体的にその事をやっていただいた。加えて、小学校区の安全では、警察や学校も含めて連絡協議会を作っている。警察の視点から見たらどうかということで、保育園のほうも見てもらうようにしたらどうかという話もできている。コースの再チェックはそういった形でさせていただこうかなと思っている。小学校区の話になるかもわからないが、例えば、スピードを出せないような舗装にすることもできると思うので、そういったできる事はしっかりやっつけようと思う。ブロック塀の倒壊もあってはならないので、通学路についてはチェックがほぼ完了できている。

そして、防犯の関係だが、カメラをつけたら抑止力にはなるかもしれないが、事前にチェックができるかというところ、なかなかできないところもある。例えば、橘校区のおじいちゃんおばあちゃんが、登下校の時間帯にワクワク健康ポイントを利用しながら歩いて見守るとか、そういった健康増進もしていきながらというやり方もあるのではないかな。これこそ地域の中で話していただき、いろいろなアイデア出しをしていただいて、地域が見守るといふようなことが必要ではないかと思う。防犯カメラについても、基金なども活用し、データを取りながら、こういうところは危ないということを書いていただくとか、やはり地域で子どもを守るといふことでは、ワクワク健康ポイントなどの事業に引っ掛けたりすることもありかなと思うので、ここは皆さんのアイデア出しかなと思う。

#### 【市民協働推進課】

それぞれの団体の課題については、橘の未来をえがく会の時からいろんな課題を持ち寄り、市長が既存の施策を少し切り替えることで課題解決に繋がることもあるのではないかなという議論を今までもしていたので、また市役所も一緒になって考えていき、課題解決に向けて取り組んでいけたらと思っているので、ぜひ、橘の未来を拓く会でも、その課題に対してどうすれば解決できるのかを、一緒に考えていけたらと思う。そろそろお時間もきているので、一旦司会の方にお返しする。

### 3 まとめ・閉会

#### (1) まとめ

#### 【市長】

本当に自分の思い入れのある部分を、橘の皆さんに押し付けた部分もあったのかなと思ってしまうのだが、そうは言いながらも自発的に、そしてチャレンジという部分もあり、若い人も男も女も、この地域をどうしていこうか、どうすべきなのかというところを、時間をかけて丁寧にやってきて下さったなと思っている。そのことは、繰り返しになるが、他の地域に間違いなく広がっていくことだと思っている。私の橘に対する思いというのは、同級生がたくさんいるからとか、遊び仲間がいるからという気持ちではなく、橘が好きだ。橘からスタートしたというのは、とても自分の中でありがたく思っている。そういった意味で、私たち行政はどういう形でみなさんと係わっていくのか、今までとは違う方向・方法で、私たち行政も取り掛かっていかなくてはならないと思っている。よく言っている事だが、市民

協働の担当者だけでなく、それぞれ各部が係わっていく問題だ。そう言いながらも手探りでやっている。そういったことで、伴走をさせていただくという言葉になるが、今日から橘、そして、橘も良くなれば西条ということになると信じている。これからまた新たなスタートを切り、どうかこの輪を、この熱を、橘の皆さんに、市民の皆さんと一緒に広げていきたいと思っているので、これからもよろしくお願いいたします。

## (2) 挨拶

### 【橘の未来を拓く会事務局長】

今日は市長、市役所の方、関係団体の方を招いてこのような会が開催でき、本当に私たちも感激で良い1日になったことを感謝したいと思う。私たちは橘の未来をえがく会で話し合ってきた、5年後はこうなっていきたいという、橘校区の地域未来ビジョンというものが出来上がっており、こうありたいというものに向かって、どんな小さなことからでもいいので、一つ一つ課題を解決し、地域の方の笑顔に繋げていきたいと思っている。引き続き皆様のご助言、ご支援をよろしくお願いいたします。そして、たくさんの高齢者の方の希望、私たちの希望である住み慣れた地域、家で最後まで生活したいということが可能になるよう、私たちも努力していきたいと思うので、これからもよろしくお願いいたします。

(閉 会)

〈タウンミーティングの様子〉

